



国際交流ニューズレター

発刊の挨拶

大学の国際化が求められる昨今、わが教育学部の国際交流も年々活発になってきています。中でも中国天津師範大学との関係は、合作弁学プログラムの本格的実施に伴い、一層緊密の度を増しています。そのような状況を教職員の方々及び学生諸君に知っていただきたく、国際交流委員会・合作弁学実施委員会の合同でこのリーフレットを発行することに致しました。当面は隔月程度で発行の予定です。ご愛読下さいますようお願い申し上げます。

着任のご挨拶

天師大派遣教員 伊藤彰男

出発前には送別会(壮行会)を開いていただき有り難うございました。8月27日無事に天津に到着し、翌日から授業を行っております。こちらでの生活も早一ヶ月が経ってしまいました。この間、東理事や集中講義の佐藤廣和先生、又、松岡先生と学生たちが天津に来られましたので、本当にあつという間でした。先生方に教授会の席で公言しました手前、今は宮岡先生と共に昼食、夕食時にご案内できる店の開拓に努力している最中です。でも、これも限界がありますね。時間がありませんから、さらに努力していくつもりですので、是非こちらに多くの先生方が来られ楽しめることを願っています。

私がこちらで先ずやらなければと思っております。第一に合作弁学の正式な申請でした。先生方には色々ご心配をお掛けしたかと思いますが、無事に9月28日天津市教育委員会に提出されましたことをご知らせ致します。こちらのメンバーはかなり遅い時間まで準備に取り組んでいました。私自身が何かしたということはないですが、これで役目の一つは、一山超えたと思っております。

第二は、天津に滞在されている日本人との交流を大事にしていきたいということでした。9月8日、

教育学部

国際交流ニューズレター

第1号
目次

天津便り

--1-2

■ 着任のご挨拶

天津師範大学派遣教員 伊藤彰男

■ 天津からこんにちは

社会科教育 宮岡邦任

留学生便り

--2-3

- UNCW への交換留学生からの便り
- 音楽科学生、エアランゲン・ニュルンベルク大学へ留学
- 河南師範大学からの交換留学生来学

学生海外活動

--3-4

- 中国・内モンゴル自治区における初等ものづくり教育実践
- 3大学国際ジョイントセミナー・シンポジウム

海外留学・研修案内

---4

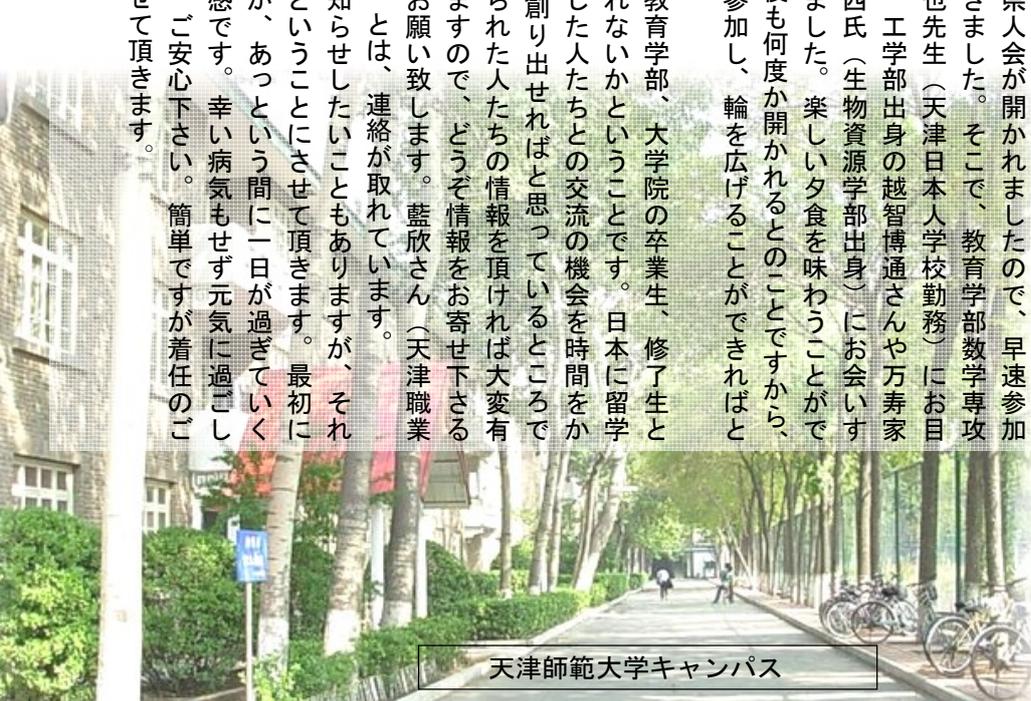
- 河南師範大学への留学生募集
- 2007年度第5回天津師範大学語学研修&文化交流
- 2008年度協定校留学希望者へ

第7回の三重県人会が開かれましたので、早速参加させていただきました。そこで、教育学部数学専攻の卒業生森達也先生(天津日本人学校勤務)にお目にかかったり、工学部出身の越智博通さんや万寿家の古山氏、中西氏(生物資源学部出身)にお会いすることができました。今後も何度か開かれるとことですから、宮岡先生共々参加し、輪を広げることができればと思っております。

第三には、教育学部、大学院の卒業生、修了生との連絡網が作れないかということです。日本に留学し卒業、修了した人たちの交流の機会を時間をかけながらも創り出せればと思っております。天津に戻られた人たちの情報を頂ければ大変有り難いと思っております。どうぞ情報をお寄せ下さるようよろしく願います。藍欣さん(天津職業技術大学所属)とは、連絡が取れています。

まだまだお知らせしたいこともありますが、それは又別の機会ということにさせていただきます。最初にも書きましたが、あつという間に一日が過ぎていくというのが実感です。幸い病気もせず元気に過ごしておりますから、ご安心下さい。簡単ですが着任のご挨拶に替えさせていただきます。

天津師範大学キャンパス



天津からこんにちは 社会科教育 宮岡邦任

日本の皆さん、こんにちは。天津に9月13日に到着してから、早いもので半月が過ぎました。この半月の間に、雨が降るたびに気温は徐々に低下し、師範大構内の木々もだいぶ色づいてきました。到着した当初はビールが非常においしく感じられましたが、この数日は、白酒に鍋物がとてもおいしく感じられるようになりました。こちらで寒冷前線の通過で雨が降ると、その数日後にその前線が日本に移動して行き、東海地方で同じ前線の影響で雨が降っている様子をNHKの国際放送でみていると、何か不思議な気分になります。

師範大での日本語の講義もすでに5回以上行い、だいぶ型にはまった指導ができるようになってきました。初めて語学の講義をする私にとって、天津入りする前までは、それなりに不安な部分はありましたが、実際にやってみると結構何とかなるものです。また、師範大の先生方と夕食をともにすることで、こちらの文化や学生さんの様子、大学の様子、授業の方針などについて、かなり詳しく知ることができたり、議論することができ、日々の生活や授業を組み立てる上で非常に役に立っています。

こちらで生活を始めて、極めて短い期間で生活のリズムをつかめたのですが、これは師範大の先生方が日本語を話せるということで、日常生活で困ったことがあればすぐに対応して頂けることをはじめ、師範大の受け入れ体制が想像以上にしっかりしていたことに尽きると思います。

日本の皆さん、こんにちは。天津に9月13日に到着してから、早いもので半月が過ぎました。この半月の間に、雨が降る

10月1日から一週間は国慶節の連休で、今日は市内の本屋まで天津や私の研究のフィールドである黄河や長江の関係の本を大量に購入してきました。滞在中に、天津の水利用や水辺景観など、自分の専門に沿った簡単な調査もできたらと思いつつ、日々天津での生活を楽しくしております。

紙面の関係で残念ながらなかなか全でお話しすることができません。天津滞在に興味のある方、是非一度遊び(もとい見学)に来てください。おいしい料理屋などを伊藤先生と日々開拓しております。楽しい天津をご案内させていただきたいと思いますので、ご連絡下さい。

簡単ではございますが、これにて天津着任のご挨拶に代えさせていただきます。



宮岡邦任先生と伊藤彰男先生

留学生 便り

UNCW への交換留学生からの便り

米国ノースカロライナ大学ウilmington校(UNCW)と三重大の間で大学間協定が2005年12月に締結され、2007年8月中旬より1学期間の予定で、三重大より3人の学生が第一陣として交換留学生として学んでいる。教育学部4年生の高橋真理さん、笠原智子さん、人文学部4年生の川北佳雅君である。その3人に留学の様子について、いくつかの質問に答える形で中間報告をしてもらったので、その紹介をしたい。

まず、3人によれば、UNCWのキャンパスは広大で美しく、人々はフレンドリーである。自然がいっぱいで、学内でたくさん野生のリスが見られ、建物もきれいできれいな噴水もある。また夜でも街灯が灯っているので大きな道は明るくウォーキングができるくらいである。ゼミや研究室への所属は強制ではないが、少人数のクラスもいくつかある。図書館は平日午前3時まで開いている。バレー、バスケット、テニス、サッカーのコートの他に大学内にジムもあり、UNCWのカードを見せれば利用可。学生にとって勉強においても生活においても過ごしやすいくわがる。

このような環境の中で、彼らは4~5科目を履修しているが、それぞれの科目は週に2~3回の授業があり、授業負担は米国人とほぼ同様である。共に英語教育専攻である高橋さんと笠原さんは、次の3つの授業を履修している。Foundation of Teaching (教育心理学)、Freshman Composition I (エッセイの書き方とリーディング)、English As a Second Language (第二言語としての英語、留学生用の授業)である。そして高橋さんはさらに、Literature in Elementary School (小学校における文学作品)を、笠原さんはTeacher, School & Society(アメリカ教育史)、とField Studies (幼稚園から高校までの授業観察)を受講している。アメリカの金融制度について現地で卒論執筆中の川北君は American National



前列右から、川北君、高橋さん、笠原さん



笠原さん：
大学のマスコット
のSeahawkと

Government (アメリカ政治学)、The United States Since 1865 to Present (アメリカ史)、Money and Capital Markets (経済学)、International Politics (国際政治学)の授業を取っている。3人とも授業のための勉強にかなりの時間を費やしているようである。

また、留学生の世話をする国際交流課についても聞いてみた。笠原さんによれば、「ホストファミリーや Conversation Partner も希望すれば見つけてくれます。イベントをたくさん催してくれて、留学生が充実した生活を送れるようにしっかりサポートしてくれています。」とのことである。又、高橋さんと北川君は留学生受入れ担当責任者が、授業登録の援助や、同僚のホームパーティへの招待や布団の貸与など公私にわたり親切な対応であることを述べている。

最後に、「日本にいる時に準備しておけば良かったと思うこと」という質問には、3人とも、まず出来る限り英語力を高めておくべきであったと報告している。特

にリスニングとスピーキングで、学生との会話についていけないなど困ることがあるとのこと。専門分野の知識・理解度を高めておくこと、米国文化だけでなく日本文化についても多くを知っておくことの重要性を述べている。

留学してまだ1ヶ月半ではあるが、3人は授業の大変さにとまどいながらもアメリカの大学生として多くを学んでいるようである。残りの2ヶ月余、さらに沢山のことを吸収してほしい。(早瀬光秋 記)

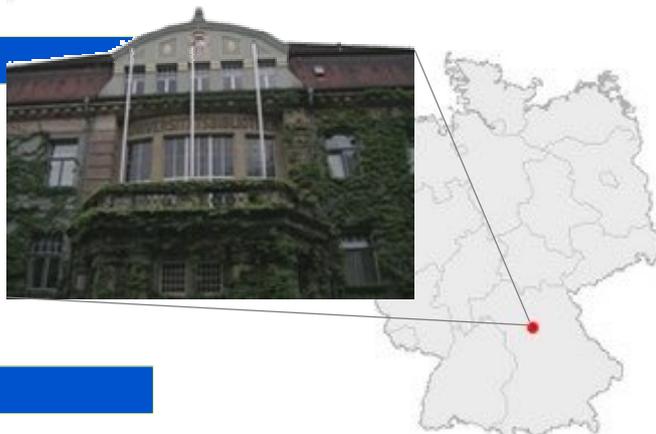


高橋さん：バージニアのキャンプにて野生のポニーと

音楽科学生、エアランゲン-ニュルンベルク大学へ留学

教育学部2年生の村上文さん(音楽教育コース)が、協定校エアランゲン-ニュルンベルク大学に9月23日に出発しました。教育学部音楽教育コースで勉強してくる予定です。

*エアランゲン-ニュルンベルク大学(Friedrich-Alexander Universität Erlangen-Nürnberg, FAU)は、1742年に創立、バイエルン州において2番目の規模を誇る大学です。



河南師範大学からの交換留学生来学



王さん、趙さん、李さん

熱烈歓迎!9月26日(金)に河南師範大学から第2回目の交換留学生3名を迎えました。今回は3人とも女子学生で、名前は、李淵慧さん、趙科さん、王旭さんです。担任教員はそれぞれ丹保健一先生(国語)、高橋昌子先生(国語)、藤田達生先生(社会)

です。現在、国際女子寮で暮らしています。3人の留学生は、これから1年間国際交流センターで日本語の授業を受講するかたわら教育学部の授業も受けることになっています。日本での生活を楽しみながら、多くのことを学んでほしいと思います。

学生海外活動

学生による海外授業実践

今年度の「三重大学国際交流基金国際交流事業経費助成(学生向け)」に教育学部から二件が採択され、いずれも9月に現地中国で実践が行われました。右はそのうちの一件についての学生による概要報告です。もう一件は次号で紹介予定です。

中国・内モンゴル自治区における初等ものづくり教育実践(概要報告)

私の故郷である自治区で生徒同士が相談しながらくふうを要するものづくり授業の実践研究を行っています。昨年度は三重大学の日本人学生とともに、状況調査と試行授業を行いました。内モンゴル自治区では伝統工芸について学校で



中学校における実践授業の様子

教えられていますが、生徒同士が相談しながらのくふうを要するものづくりの授業はなく、とても好評でした。今後の産業発展に必要な授業であると思います。そこでこのような授業が普及するよう、今年度は内モンゴル師範大学の学生 10 名向けにこのような授業の組み立てのワークショップを行いました。その上でその学生らにより小中学校各 1 クラスについてモーターづくり、ロボットづくりの授業をしてもらいました。10 名は私の学部時代の同級生ですが、日本のものづくり教育に大変興味と関心を示していました。また、参加した小中学生から得たアンケートは日本で同様な実践を行った場合と明確に異なる部分があり、教育上の貴重な知見も得ることができました。今回は経費の都合でモンゴル国の調査はできませんでしたが、できれば今後調査、そして授業実践をモンゴル国でも実施したいと考えています。(技術教育専修 M2: 包 金小)

3 大学国際ジョイントセミナー・シンポジウム

3 大学国際ジョイントセミナー・シンポジウムが、今年はチェンマイ大学(タイ)において 10 月 21 日から 26 日まで開催されます。同セミナー・シンポジウムは、三重大学、チェンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)が開催校となって実施している学生中心の国際交流企画です。昨年は三重大学で開催されました。人口、食料、エネルギー、環境を主要テーマとし、学生が英語で研究発表をするほか、文化交流行事、エクスカージョンなども行われます。

三重大学からは、三重大での選考に合格した 15 名が参加します。うち 3 名は教育学部の学生で、以下のテーマで研究発表を行います。

佐々木 綾子 (4 年) :

The Necessity of Food Education in Japan

田畑 育海 (院 1 年) :

Flowed Groundwater by Tidal Excursion at Matiya Beach, Japan

鏡 愛 (院 1 年) :

How Can We Create Digital Stories to Communicate with Asian People?

なお、教員では宮地信弘先生が参加されます。



2004 年チェンマイ大学で開催された時の様子

海外留学・研修案内

information

河南師範大学への留学生募集

現在、2008 年度河南師範大学への留学生を募集しています。締め切りは 12 月 21 日(金)です。提出書類は以下の 3 点。

- ・「河南師範大学留学応募調書」
(教育学部学務チームにあります)
- ・成績証明書
- ・外国語能力試験成績通知書
(中国語・英語等、あれば。コピー可)

河南師範大学での授業料は免除されます(ただし、三重大学への納入は必要です)。留学期間中は休学扱いにはなりません。多くの教育学部生が応募することを期待しています。

2007(平成 19)年度 第 5 回 天津師範大学語学研修&文化交流 参加者募集

実施期間: 15 日間

2008 年 3 月 9 日(日) - 23 日(日)

参加定員:

20 名程度(10 月 29 日から先着順)

参加費用: 約 15 万円

引率者: 三重大学教員 2 名

第 1 回 説明会を次の日時に開催します。

日時: 11 月 7 日(水) 12:15 -

場所: 総合研究棟 II 1F (第 4 会議室)

来年度交流協定校留学希望者へ

平成 20 年度に三重大学との交流協定校へ留学を希望する者は、10 月 31 日までに「交換留学生願書」を国際交流センターに提出してください。願書は国際交流センターで入手できます。

「国際交流ニューズレター」編集部では、皆様の原稿をお受けいたします。国際交流に関して建設的なご意見を国際交流委員会、合作弁学実施委員会までお寄せください。